

KSKR

だいかれん

公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会(大家連)

大家連定期総会報告

2015年度の定期総会がアネックス・パル法円坂にて5月16日(土)、開催されました。大阪府・大阪市から4名の担当課長が出席され、大家連への励ましの言葉が贈られました。34家族会の出席の下、すべての議案が承認され、可決されました。

第1号議案 事業報告

特に2014年度(平成26年)事業報告の中で、前年度から引き続き大阪府、及び各市町村においての「精神障害者の医療費助成及び運賃割引等の取り組み状況」、交流会の内容、精神保健福祉講座の内容などが報告されました。

第2号議案 決算報告

第3号議案 監査報告

説明報告があり、承認されました。

第4号議案 事業計画

大家連の実情などの説明があり、理事から皆さまの協力を仰ぎたいとの発言もありました。

第5号議案 予算案

説明報告があり、承認されました。

第6号議案 新役員体制

2015年度(平成27年)役員体制(案)は承認されました。続いて臨時理事会が開催され、会長理事、副会長理事が選定され、下記の体制が可決されました。



新役員体制

理事	倉町公之	(重任)
理事	林 信子	(重任)
理事	古元百合子	(重任)
理事	岸上知三	(新任)
理事	中村真由美	(新任)
理事	和泉克子	(重任)
理事	奥野 保	(新任)
顧問	遠塚谷富美子	
相談役	川辺慶子	
理事	川辺慶子	(退任)
理事	渡辺孝子	(退任)
理事	徳田 誠	(退任)
理事	猪熊 淨	(退任)

今年度もご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

林 信子

目次

◆ 総会報告	1 頁
◆ 会長あいさつ・報告	2 頁
◆ 「大阪都構想」への取り組み	3 頁
◆ 家族会紹介(岸和田はづき会)	4 頁
◆ 遠塚谷さんのミニ知識	5 頁
◆ 二〇一五年精神保健福祉講座	6 頁
◆ 理事会の活動報告・賛助会報告	7 頁
◆ 投稿詩「地球のともだち」	7 頁
◆ お知らせ・編集後記	8 頁

会長あいさつ・報告

重点課題

医療費助成と交通運賃割引に
本腰を入れて取り組もう

5月16日、大家連の年度総会と第1回家族会代表者会議を開催しました。

当日は、活発な意見が出され、会議時間も足りないほどでしたが、7月末にでも第2回の代表者会議を持つこととなりました。↓8月3日(月)に開催します。

○積極的な意見が沢山出されました。

・重点課題(医療費助成と交通運賃割引)は、家族会にとって重要な取り組みなので、もっと積極的に進めよう。

・期限を決めて取り組むようにしたらどうか。
・署名活動など、進め方について大家連がリードした方がいい。

○重点課題のこれまでの取り組み

昨年、大家連では、「重度障害者の医療費助成及び公共交通機関の運賃割引の精神障害者への摘要に関する請願」を、大阪府議会議長あてに提出し、全会一致で採択されました。これに基づき府議会から知事に対して実施に向けての検討が求められました。が、府知事からの回答は、これまでの取り組み以上のものにはなっていません。

そこで、地域の家族会から市町村の議会に「医療費助成と交通運賃割引を求める請願」を提出し、市町村議会から大阪府議会と府知事への働きかけを進めてきました。



現在6市町で、採択されています。
○これからの取り組み

①市町村議会の請願をさらに前進させよう
次の代表者会議に向けて、「請願」を未提出の家族会は議会への提出を進めましょう。

②署名活動で、家族の声を直接届けよう
署名活動を始めました。私たちの声を、直接「大阪府知事」と「国会」へ届けましょう。
・緑色の署名用紙は、「大阪府知事」へ家族の声を届けるものです。
・白色の署名用紙は、「国会」へ家族の声を届けるものです。来年の4月までに、全国で100万筆を目標に取り組みます。

(大家連の目標)

全国100万筆に対し、8万筆を目標とします。

8月の代表者会議までに、1万筆を目標に取り組みましょう。

以上の「2本柱の取り組み」について、大家連を上げて本腰を入れて取り組んでいきましょう。

会長 倉町公之

みんなねっと福岡大会

～精神障がい者が共に暮らせる地域づくり～

日時 2015年9月28日

29日

会場 福岡国際会議場

参加費 3,000円

(学生1,000円)

(障がいのある人500円)

事務局 福障連

Tel 092-292-0560

Fax 092-292-0561

1日目

- ・基調講演「戦後70年と障害者権利条約」 藤井克徳氏
- ・みんなねっと活動報告 本條義和 ・行政報告 厚生労働省より
- ・記念講演「精神病になっても希望をもって生きられる」 門屋充郎氏

2日目 分科会

- 第1「家族と家族会の力と役割」 第2「わが国の家族支援に求められるもの」
- 第3「地域で暮らし、地域でささえる」 第4「働く喜びを広めよう」
- 第5「当事者の力、自立と経験を活かす」
- 第6「このままでいいの？精神障がい者の暮らしと権利」

「大阪都構想」への取組み

「大阪都構想」と聞いた時皆さんは、どのような感想を持たれましたか。

私は、唐突に出されたものに感じ、「大阪市の福祉はどうなるのだろう」と思いました。

4月22日、障害者団体で勉強会が持たれ、大阪市の元職員の方から「大阪都構想」の概要を聞きました。大阪市が分割された後の「5特別区」の福祉の予算や市営交通機関などがどうなるか分からないと感じました。

○市内の会員で勉強会

市内の会員から、「勉強会をやらないか」と声をかけられ、5月1日に勉強会を行いました。会員12名が集まり、障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議（障大連）の古田さんの話を聞き、

- ・大阪市がなくなってしまう
- ・大阪市は政令市の権限と財源を失う
- ・大阪市の予算が府に吸い上げられる
- ・障害福祉サービスも大きく変えられるが、どうなるか分からない
- ・こころの健康センターは府の機関となるか、無くされる可能性もある
- ・各区の精神保健福祉相談員が減らされる

などについて、お互い疑問や感想を出し合いました。

「良く分からないまま投票が行われ、賛成票

が1票でも多かったら大阪市が無くなる、もう元には戻らない、そうならないように反対の意思表示をしよう。」ということになりました。

また、5月8日の「大阪市をなくすな！障害者連絡会アピール集会」に参加して、大家連からも意見表明することとしました。

○障害者など500名で集会

5月8日、大阪市役所南側広場で「大阪市をなくすな！障害者連絡会アピール集会」が開催され、各障害者や家族、関係者約500名が集まりました。

障大連の古田さんが、基調報告を行い、各団体から17名が意見を述べました。

大家連からは、前会長の大野素子さんが意見表明しました。橋下氏が知事になって、大阪府から大家連への補助金が無くなったこと。また、2年前には、大阪市中心部の健康センターが行う電話相談と大家連が行う電話相談とがダブるということで、家族相談事業への大阪市からの委託費が無くなったことなどを述べました。これらのことから、橋下市長の提案する大阪都構想の趣旨「大都市戦略」は、障害者の福祉を後退させるものであると意見表明しました。

その後、500名の参加者で、

- ・大阪市をなくすな！
- ・くらしやすい大阪市をつくろう！
- ・障害者の制度を引き下げるな！
- ・市営交通の無料パスを守れ！

などのシュプレヒコールを行い、通行者や市の職員へのアピール行動を行いました。

その後、大家連を含む7団体で、大阪市の記者クラブで記者会見を行い、大家連としては上記内容を述べました。また、大阪市会を訪れ、維新の会以外の各会派に当日の資料を手渡し、公明党の幹事長にはお会いして説明することが出来ました。

○「反対」がわずかに上回る

ご存じの通り、5月17日の住民投票の結果は、「反対」が「賛成」を1万741票上回り、「大阪都構想」は否決されました。

家族会をはじめとする障害者の取組みも、何がしかの力になったのかなと思っています。

会長 倉町公之

【新しい情報】

平成27年4月より

おおさが精神科救急ダイヤルの
受付時間が変わります

平日 17時～翌朝9時

土日・祝日・年末年始 9時～翌朝9時

ご来所という時に

0570-10-5000

家族会紹介

『岸和田はづき会』(泉州ブロック)

平成25年に「岸和田はづき会」の会長が急逝のため、解散すべきか、他の家族会に合流すべきかとの事で、大家連に相談電話が掛かってきたのが「はづき会を考える会」の一步でした。その後打ち合わせを重ねて、大家連理事、地元のかけはし(地域支援生活センター)の協力で役員体制が整い、総会にて正式に承認され、毎回の例会以外にも多くの行政との関わりの中、会長はじめ一人一人の役員の緻密な働きで現在に至っています。大家連には小規模の家族会もたくさんありますが、会員が皆で力を合わせて頑張ってきた家族会を紹介したいと思います。

(大家連・泉州ブロック担当理事 林信子)

広げよう共通の願いの輪

岸和田はづき会 会長 加藤義幸

私は家族会を預かって2年の経験ですが、その役割と存在理由の重大さを時間の経過とともに強く気づかされる日々であります。統合失調症やパーキンソン病を患った病人と一対一で孤立無援な介護と家事の全てをこなす『老々介護』『病病介護』の根本のような私の境遇。自身の体調管理や経済的不安を含め心身ともに努力の限界を感じる日々の連続であります。

この厳しい苦境の渦中にある私自身が家族会活動に求める事柄こそが、多くの家族の願いと共通しているのであると考え暗中模索しながらそれらを具体化して行きました。しかし当初は職責に見合った会の運営の具体策が思い描けずに、近隣の精神科病院や地域支援センター及び保健所や自治体関係各課を訪問し、家族会運営に必要な貴重な意見やヒントを得ました。中でも例会への出席についてその都度協議に応ずるとの回答をした施設もありました。

家族が常に最優先で求めているのは精神医学に関する最新情報であり、率直に語られる各家族の近況(体験)報告や問題提起について、医師の領域を超えた家族会ならではの貴重な情報やヒントとして大いに参考にされています。

また、自治体の障害者施策や自立に関わる協議会やヒヤリング、災害発生時における精神障害者支援問題や福祉センターの立て替えに関する意見聴取会など、私たちの要求や願いと関係すると思われる全てに積極的に参画し懸命に訴えて来ました。

その結果、他の障害者施策と比較して無視できない不十分さや矛盾を内包していますが、精神障害者の「タクシー料金の一部助成」やグループホーム入居者への「家賃補助」の拡大などの実現のメドが見通せる段階にきています。そして当初の当局案では精神障害者は災害発生時の要支援者(議論)の対象外とされていたのに対し、その後の議論によって「要

支援者」として位置づけることを確認するに至りました。

2年前に遭遇した家族会の解散も止むなしと思われた苦境に対し、当時の不慣れな新役員と会員の協力で何とか踏みとどまったことの意味は、これからの成果から推し量ると絶大であったと言えます。

たとえ小さな家族会であっても、民主的運営と透明性を保ち地域でその存在が公になっている組織については、市の福祉施策立案に際し対等の立場を保証し協議の対象として取り扱わざるを得ない関係であったと考えます。

同時に質素で小さな家族会ですが、例会が「待ち遠しい…」と期待される会員もおられるもとで何とか頑張らなくてはと考えつつ、例えば、自分は決して欠席は許されない立場や介護者としての立場の両立の厳しさにくじけそうになります。

当事者と家族の切実な要求や願いを実現させるには、一族より家族会、一族会より大家連、大家連より全国組織であります。全国の全地域で家族会を組織し今こそ『共通した願いと要求』に基づいて共同した取り組みを行わなくては、国政の動向をみれば障害者福祉はもちろん健常者でさえ明日の生活に明るい展望の描けない事態が急激に進行するものと考えます。

精神障害者と家族の国や社会に向けたSOSの声は、現在に至るまで誠に小さく『萎縮』したものであったように見えてなりません。

とおつかに
遠塚谷さんの

ミニ知識

セルフ・ヘルプ・グループ

セルフ・ヘルプ・グループは、メンバーが同じような経験を持ち、問題や気持ちを分かち合い、相互に援助し合うグループです。

セルフ・ヘルプ・グループに集まる人々

今日、あらゆる疾病や障害についてセルフ・ヘルプ・グループがつくられているといっているでしょう。

例えば

- ・心身に病気や障害のある人―難病・精神障害者などの会
- ・依存や嗜癖のある人―アルコール症、摂食障害などの会
- ・人間関係や社会との関係に悩む人―閉じこもり、不登校の人の会
- ・これらの人たちの家族の会
- ・精神障害者の家族の会もセルフヘルプグループの一つです。

ありのままの自分でOKなのだ

セルフ・ヘルプ・グループに出会った人は、他ではいえないことを安心して話せる体験をもち、そこで自分は救われる、との思いをも

ちます。苦しむのは自分1人ではないことを実感し、孤立感から解放されます。他の人の心理的サポートを得て、どうにかして逃れたいと思ってきた自分の問題に向き合い、ありのままの自分でいいことに気づき、その問題への見方考え方を変えることができたという人が何人もいます。

また、人から援助されるばかりだったのが、同じ問題をもつ人との関係で、自分も人を援助することができるのだという、有能感を獲得できるのです。

セルフ・ヘルプ・グループの重要性

こうした相互援助グループの起源は、1935年に2人のアルコール症の男性が始めたA.A.だといわれています。1970年代に入ってセルフ・ヘルプ・グループはめざましく発展を遂げ、我が国でもこの頃から多くのセルフ・ヘルプ・グループが誕生するようになりました。

医療や福祉のサービスを受ける側が、専門家のいうことに従うだけの受け身の態度でなく、サービスを利用する側としての主体性をもつようになってきました。専門家は科学的・客観的な知識や技術を持っていますが、利用者は経験的な知識や対処法を持っています。それらはどちらも重要だと思われるようになってきたのです。

こうして、相互支援グループとしての活動とともに、社会に発言する役割も発揮するよ

うになります。社会の支援を得るための活動や、国や自治体の施策への要求を行う活動も重要な位置づけになっています。

精神障害に関連するグループ

精神障害者のグループは1970年代に多く誕生し、1993年には全国精神障害者団体連合会（全精連）が結成されました。全国精神障害者家族会連合会（全家連）は1965年に結成され、2007年に解散し、その後みなねっと（全国精神保健福祉会連合会）が誕生し現在に至っています。

他にも実に多くの精神保健関係のグループが存在しています。

大家連編集部より

遠塚谷さんのミニ知識は皆様に大変好評で、切り抜いて冊子にして家族会の勉強会に利用しているとの情報も寄せられています。

読者の皆様がどのような情報が知りたいかをお寄せ下されば、皆様の知りたいことに焦点をあてた情報を提供できると思います。筆者も皆様のご感想やご意見、ご質問を聞いて、より良い情報とを考えられています。

ご感想やご質問、ご要望を編集部までお寄せ下さい。

TEL 06-6941-5797
FAX 06-6945-6135

2015年度(平成27年)精神障がい者社会参加支援事業精神保健福祉講座

～精神科医療を学び、当事者家族の対処力を高める講座を実施します～

(会場は変わりますが、時間はすべて13:30～16:00です)

実施日時	場 所	講 師 所 属	テ ー マ
① 5月30日(土)	アネックスパル法円坂 5階パレストラ	埼玉県精神障害者家族会連合会 岡田久美子氏 千葉県精神障害者家族会連合会 貫井信夫氏	家族会活動と家族学習会 ～家族会が地域の貴重な社会 資源であるために～
② 6月14日(土)	アネックスパル法円坂 5階パレストラ	阪井土地開発株式会社 阪井ひとみ氏 フィールド 植田知恵子氏	地域で暮らすための支援 ～制度を使わなくてもここまでで きる一人暮らし～
③ 7月4日(土)	ドーンセンター 5階 特別会議室	やきつべの径診療所 精神科医 夏莉郁子氏	家族として、当事者だった身として、 そして精神科医として伝えたいこと
④ 7月18日(土)	ドーンセンター 5階 特別会議室	淡路プラッツ 金井秀樹氏 大阪市職業リハビリセンター 森実恵氏	ひきこもりの若者居場所支援か ら就労につなげていく支援 ～やってみようセルフケア～
⑤ 8月1日(土)	ドーンセンター 5階 特別会議室	大阪府病院薬剤師会副会長 天正雅美氏 他 薬剤師6名	「みんなで支える薬物治療」 講演後 お薬相談
⑥ 8月22日(土)	ドーンセンター 5階 特別会議室	NPO法人ぴーす 小田多佳子氏	災害にそなえて 防災ワークショップ
⑦ 9月12日(土)	ドーンセンター 5階 特別会議室	新阿武山病院 栄養管理士 井戸由美子氏	栄養指導 ～たかが便秘されど便秘～
⑧ 9月19日(土)	ドーンセンター 5階 特別会議室	コーディネーター 日本福祉大学 青木聖久氏 家族3名	家族が求める家族支援 ～体験を通して語る経験交流会～
⑨ 10月17日(土)	ドーンセンター 視聴覚スタジオ	全国精神障害者地域生活支援協議会(ami) 代表 伊澤雄一氏	精神障害の方々の地域支援を 考える
⑩ 10月25日(日)	エルおおさか	国立精神・神経医療研究センター 精神科医 松本俊彦氏	自傷のことを誤解しないで
⑪ 11月13日(金)	ドーンセンター 視聴覚スタジオ	精神科医 田川精二氏 JSN門真 金塚たかし氏 他就労移行支援事業所	支援があれば可能になる ～医療と福祉が支える精神障害 者の就労
⑫ 11月29日(日)	ドーンセンター 5階 特別会議室	寝屋川保健所課長 後藤雅子氏	家族相談から見えてきたこと
⑬ 12月19日(土)	アネックスパル法円坂 5階パレストラ	コーディネーター 桃山学院大学 栄セツコ氏 当事者3名	地域で自分らしく生きる

理事会活動 月次報告 2015年

1月

5日 パル法円坂新年互礼会
8日 東大阪訪問
9日 河内長野訪問
10日 大精協新年互礼会

精神保健福祉講座(今川氏)
ケース会議 3役会
南河内ブロック家族学習会
病院協会スクーリング
相談フォーラム
ODF世話人会
病院協会スクーリング
療養環境検討協
シムボ懇親会
薬剤師会シムボ(和歌山)
理事会
府差別解消部会

2月

7日 大阪市と意見交換会
2日 大阪診療所協会新年伝達講習会
精神保健福祉講座(古田氏)
だいかれん誌発送
大阪府
府施策推進協議会
臨時理事会
2月府議会に向けての懇談会(共産党)
ケース会議 社会参加推進協
理事会
あんしんサポート事業運営委員会
代表者会議

3月

2日 臨時理事会
5日 近畿ブロック交通PJ
6日 みんなねっとフォーラム(東京)
12日 東大阪自殺予防対策研修会
13日 3役会
16日 大阪市計画策定部会
17日 東大阪坂本病院

4月

19日 府社協福祉部会
20日 みんなねっと理事会
23日 理事会 臨時総会
25日 東大阪健康づくり課
28日 光愛病院人権委
30日 自立支援協(光明池)
31日 大阪市精神保健福祉審

1日 大阪府課長等ご挨拶来所
2日 自閉症啓発デー
6日 臨時理事会
8日 造幣局桜の通り抜け
9日 三役会 19条25条の会
10日 寝屋川保健所
13日 国分病院 打ち合わせ
15日 笹井所長来所
16日 議案書送付
24日 阪本・国分病院
27日 理事会

平成27年度の賛助会費
年会費をいただきました。
ありがとうございます。

個人賛助会費(団体)納入状況
(103千円/年)として

1 花園生活支援センター つどい(東大阪市)
3 神戸市精神障害者家族連合会(神戸市)
3 ソーシャルハウスさかい(堺市)

個人賛助会費 (103千円/年)として

22 人分として

(平成27年4月11日〜平成27年5月20日現在)



当事者からの投稿詩

地球のともだち

西崎 想

わたし
地球も太陽もたったひとつ
星はいくつもあふけれど
地球とは違う星ばかり

地球は回りながら
仲間を探す

どこかに地球と同じ星はないのか

世界には

同じ星が三つあるという

でも

地球は気づく

地球は永遠に一つの生命

切なくて叫んだ

誰か地球と共にと

孤独に苛まれて

落ち込み

イラつき

他を攻撃した

しかし 地球は気がつく

一つだからこそ

大切なものがある

自分を大事にして

生きよう

そうだ

垣根をなくし

他と交わってみよう

他をいたわって接していると

月という友達ができた

「みんなねっと」購読しませんか

精神障害者とその家族を支援する「みんなねっと」の活動を応援してください。

「月刊みんなねっと」は賛助会費を振り込んでいただくと、毎月お手元に届きます。個人で申し込まれる場合は、郵便局に備え付けの振込用紙で(口座番号)「00130-0-338317」(加入者名)「みんなねっと」宛てにお振り込みください。購読費は年間3500円です(年度の途中で入会した場合は、4月号よりさかのぼって送られてきます)

ご苦勞様でした。
編集担当者が変わりました。前任者の方、読みやすく、興味をひく紙面にしたいと思っております。そのためにも、読者の皆様のご意見、ご感想、ご質問を、ぜひお聞きしたいと思っております。どのようなことでも構いませんので編集部までお寄せ下さい。
下記に大家連の電話、FAX、住所が掲載されています。
(誓山 京子)

□□□ 編集後記 □□□

大家連は

こんな活動をしています

* * * * *
各家族会と力を合わせて
家族の仲間作り
毎日の電話相談事業
講座の開催
『だいかれん』誌の発行
国・大阪府・大阪市などへの
要望活動

ひとりで悩んでいませんか？

心の病の患者さんを抱えている家族の方
ひとりで悩んでいないで...
あなたはもう
ひとりぼっちではありません！
同じ家族の立場で
電話相談員があなたの悩みを
お聞きます。



大家連 電話相談室

☎ 06-6941-5881

電話相談日

月～金 10:00～15:00

(祝日・お盆・年末年始は休みます)



赤い羽根募金

今年度も大阪府共同募金会から57万円をいただきました。
年4回発行のこの機関誌の印刷および発送は、大阪府共同募金会からの助成金で行っています。ありがとうございます。
赤い羽根募金へのご協力をしていただいた多くの皆様に感謝いたします。

編集人 公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会 会長 倉町 公之
連絡先 〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-1-35 アネックスパル法円坂 (A棟4階)
Tel 06-6941-5797 Fax 06-6945-6135

振込先 郵便振替 00970-4-72221 公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会
定 価 1部100円 (大家連家族会費には購読料を含む)

発行人 関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4階